

発 刊 に 寄 せ て

開所当初に植えられた玄関前のケヤキは、今年度もしっかりと葉を繁らせ研修員を迎えてきました。毎年少しずつではありますが、このケヤキも成長を続けています。センターもこのケヤキと同様に研修員を見守りながら着実に成長していきたいと願っています。

さて、国民の教育に対する関心も年々高まり、特にいじめや不祥事などには厳しい視線が注がれています。そのなかで、一昨年の教育基本法改正、昨年の学校教育法等の教育三法の改正が行われ、さらに教育再生会議や中央教育審議会の答申等も出され、教育は大きく変わろうとしています。

本県においても「学校を取り巻く実態調査」などから、これまでの改革の検証を行い、さらに課題の具体的な改善策を検討しようとしています。また、有識者による「理想の学校教育具現化委員会」で、これからの学校の役割の明確化や家庭・地域との協働について議論しています。

センターでは、今日的な教育課題に的確に対応し、信頼にこたえる教育を学校や教職員が推進できるように、研修の質的・量的な充実はもとよりそれを支える研究にも力を注いでいます。「研究と研修の一体化」といわれるように、まず教育理念を具体化できる研究がベースにあり、その上で学校において実際に生かすことのできる研修に反映する必要があります。もちろん研修からフィードバックして研究に生かすこともまた大切です。研究をするに当たっては、2年先・3年先の教育の状況を見通し、研修に生かせるだけの先見性が求められます。

今回の紀要に掲載する5本の研究は、センターにおける研修の基盤を一層確かなものにするとともに、各学校の教育活動の実際にも的確にこたえることをねらったものです。ぜひ御一読の上、忌憚のない御意見・御感想をお寄せください。

平成 20 年 3 月

静岡県総合教育センター
所 長 山 本 健 二